

【巻頭特集】

# 春日井広報大使 室田伊緒 女流二段

将棋人気を牽引する若手の1人であり、話題の藤井聡太四段の姉弟子にあたる室田伊緒女流二段は、2016年より春日井広報大使を務めています。将棋ブームが到来した現在、どのような思いで将棋や広報大使としての活動に取り組んでいるのかをインタビューしました。



## 飛車

### 室田伊緒 女流二段

1989年生まれ、春日井市出身。日本将棋連盟関西本部所属の女流棋士で、女流棋士番号は35。杉本昌隆七段門下。春日井南高等学校を経て、愛知淑徳大学を卒業。2004年10月女流育成会入会、2005年10月1日付で女流2級として16歳でプロ入り。2006年に女流1級に昇級、2008年に女流初段、2014年に女流二段に昇格。得意戦法は四間飛車。

## 春日井で活発に育った少女時代 小5で将棋の楽しさに開眼

日本将棋連盟の春日井支部で将棋を始めたのは、小学5年生の秋です。11歳と遅めなので、驚かれるかもしれませんが、3つ年下の弟が先に始めていて誘われたのがきっかけです。ルールだけ覚えて初心者大会に出たところ、四局で二勝二敗という成績。勝つ楽しさに魅了されて、本格的に将棋に取り組むことになりました。それまではピアノやスイミングなどの習い事もしていましたが、それらはやめて将棋に集中。自由に駒を動かして、パズルのようにいい形をつくることに夢中でした。難しい終盤戦できちんと棋譜が読めて、対局に勝つとスカッとしましたね。

私には春日井市稲口町で育ちました。読書や絵を描くことも好きです。

春日井で好きなお店は、春日井南高校のすぐそばにあるケーキ屋「シンシア」さん。リベラというケーキが好物で、テスト期間中に、勉強をしながら2つ食べていた思い出の味です。今も帰省した時に味わっています。



## 女流棋士に憧れプロの道へ 高校生の頃から積極的に活動

それでも最初は、将棋を職業にしようとは思っていませんでした。小学6年生の時に、イベントで矢内理絵子先生と中倉彰子先生の姿を見て、初めて女性でプロとして生計を立てる棋士がいることを知り、憧れました。それ以来この道を進み、高校生の頃には将棋が仕事として忙しくなっていました。

女流棋士は男性の「棋士」とは違う制度でプロになりますが、棋士養成機関の奨励会で四段に昇段すれば、男女問わず「棋士」になることができます。今は女性でも奨励会三段という、「棋士」まであと一歩の人がいます。将棋人口が増え、強い若手がどんどん出てきていることをうれしく思います。

## 今後も将棋と春日井の魅力でPR 未来を担う子ども達に期待

幼い頃は対局に勝つと「楽しい」という気持ちでしたが、今は「ホッとする」という心境です。緊張感ある日々の中でも、愛知で仕事がある時は、前後に春日井の実家に帰省します。

春日井の良さは、心和田舎である部分と便利さの、両方が揃った場所なので、やはり帰省すると初心に戻る思いです。

春日井の子どもの対局を見ましたが、負けた子が「負けました」とははっきり言えていて、すごいな



と感じました。負けるのって悔しくて、言いたくない気持ちがよくわかるんですが、それが言える子は精神面でもしっかりしていると思います。

同じ杉本昌隆先生の元で学んだ藤井聡太四段の活躍もあり、将棋ブームが到来しています。私としては、男の子だけでなく女の子にも将棋に親しんでほしいし、将棋をする子のお母さん世代にも一緒に楽しんでもらえたらうれしいです。まずは、かわいい「どうぶつしようぎ」を家族で始めたり、将棋の

イベントに参加してみたいかがでしょう。春日井まつりでも将棋のイベントがありますよ。

私はこれからも、将棋の普及と共に春日井のことをPRしていきます。そして本業でもタイトルを狙い、これから将棋を始める人々に憧れられるような存在になりたいと思います。

